

川特だより



川越市立特別支援学校

平成31年4月8日(月)第1号

<学校教育目標>

『ひとりだちする生徒

～社会的に自立できる心豊かな人間を育成する～』

<めざす学校像>

『生徒一人一人の自立を育てる 笑顔あふれる学校』

入学・進級おめでとうございます

満開に咲き誇る桜の花吹雪が新河岸川の川面を染める中、今年も、夢と希望に胸を膨らませた16名の新入生を迎え、入学式を挙げる事ができ、新たに11名の転入教職員を迎え、平成31年度も無事スタートいたしました。

入学式では、新入生に向け、入学を機会に励んでほしい三つのことについて話をしました。一部を紹介させていただきます。

一つ目は、笑顔を大切にすることです。困ったとき、笑顔の人とそうでない人がいたら、笑顔の人に助けをを求めるように、明るい笑顔は人を引きつけ、安心感を与えます。人間関係を築くためにも、元気なあいさつと笑顔は、欠かせません。笑顔でいることで周りも明るくなり、気持ちにも余裕が生まれます。だからこそ、普段から笑顔でいることが大切です。そんな笑顔が皆さんから消えかけたとき、かけがえのない家族や仲間、隣人が、皆さんの身に何か起きていないことに気づき、声を掛け、寄り添ってくれます。ありがたいことです。少しの失敗で落ち込まず、失敗は成功のもとであると気持ちを切り替え、何事も前向きに考え、明るく笑顔で振る舞うよう心がけましょう。

二つ目は、たくさんの友だちをつくることです。皆さんにとって、本校が最後の学校であり、学生として、最後の学校生活を本校で過ごします。学校は、学ぶ場ですが、学校には、夢や希望に向け、互いに学び合い競い合い支え合う仲間が必要です。嬉しいときに笑い合い、苦しいときに励ましてくれ、辛いときに我が事のように心配してくれる存在、それが友です。心の友となる心友を3年間の学校生活の中でたくさんつくりましょう。友こそ人生最良の、かけがえのない財産です。そんな友と共にたくさんのかけがえのない思い出を刻みましょう。

三つ目は、素直な心の耳を持つことです。これから暫くは、うまくいくことよりむしろ、思い通りにいかないことの方が多くあります。成功よりも失敗の方が多く、褒められるよりも叱られることの方が多いかもしれません。そんな時、素直に叱られることができる心の耳を持って下さい。皆さんを叱って下さる方は、日頃から、皆さんのことを真剣に考えて下さる方々です。皆さんを認め、褒めて下さる方の存在はありがたいですが、厳しく叱って下さる方の存在こそ、本当にありがたいものです。パナソニックを一代で築き上げた松下幸之助さんも「叱ってくれる人を持つことは大きな幸福である」と言っています。大切なことや、どうして失敗したかを皆さんに気づかせ、皆さんを陰で支えながら、成功に導いて下さる方こそ、叱って下さるのです。素直な心の耳があれば、大切な言葉が皆さんの心に響き、届きます。厳しい一言一言を素直な心の耳で受け止め、心から反省し、叱って下さる方へ感謝しましょう。

合い言葉は笑顔と挑戦 積極的に挑戦を！

人は、何かを乗り越えることで自信がつけます。自信は、次なる挑戦へのやる気とエネルギーとなり、人を変え、成長させます。目指す夢や思いと乗り越えようとする力があれば、何度失敗しても日々挑戦と努力を続けることができます。

今年度も、これまでの川越市立特別支援学校のよき伝統を生かし、夢と希望の実現に向け「ひとりだち」をめざして学び続ける生徒一人一人を、全教職員が一丸となり、笑顔で支えることができる学校づくりを推進してまいります。

生徒一人一人の成長と輝く笑顔のために、保護者、地域の皆様、就労先の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

校長 阿部 和彦